



全国のみんなこんにちは!!

みなさんこんにちは。2024年(令和6年)は辰年です。動物にあてはめると竜(龍)です。辰年は陽の気が動いて万物が振動するので、元気よく大きく成長し、形がととのう年だといわれています。また、竜が水を得て天にのぼるように、強いものが一層勢いを得たり、大いに活躍することを「竜の水を得る如し(りゅうのみずをえるごとし)」といいます。みなさんが今年勢いに乗って去年以上の活躍ができるよう、我々も応援してまいります。

「核兵器禁止条約」とは?

国際法として成立した「核兵器禁止条約」を紹介します

2017年7月、ニューヨークの国連本部で、122ヶ国が賛成して、「核兵器禁止条約」が採択されました。

核兵器は、これまで、条約で禁止されてなかった、唯一の大量破壊兵器です。そして、2021年1月22日、「核兵器禁止条約」は、新たな国際法として、船出(発効)しました。

核兵器禁止条約は、核兵器の開発をはじめ、製造、保有、使用、そして使用の威嚇(おどかし)まで、全ての行為を禁止する条約です。何よりも、この条約によって、核兵器が“どんな場合も禁止されるべき兵器”であることがはっきりしました。

Q1 核兵器禁止条約が目指す「核兵器のない世界」ってどんな世界?

A1 あなたも、あなたの大切な人も、“誰も置き去りにしない”世界! 実際、核兵器を禁止し廃絶すると、私たちの住む世界を大きく変えることができます。例えば、世界の核兵器への年間投資の約3割で、再生可能なエネルギー開発ができ、気候変動への取り組みを大幅に進めることができます。核兵器は、私たちの日常に大きく影響を与える、とても身近な問題なのです。

Q2 世界から核兵器をなくすために私も何かしたいけど、何ができるかわからない...

A2 「あなたの大切な人」に、核兵器禁止条約のことをシェアしましょう! この条約をあなたが、まず「知る」「語る」ことが、今のあなたにできる「行動」です。「行動」は、「何を大切に想うか」という価値観に左右されます。自分の行動が、核兵器廃絶に貢献できると思えないかもしれませんが、あなたの行動は、世論を高め、「核兵器のない世界」への大きな一歩となります。

核兵器時代の終わりへ、新たな挑戦が始まりました。

条約ができるまで

核兵器禁止条約が成立した理由は、シンプルです。世界の核軍縮が進んでいないからです。核軍縮は、別の核兵器に関する条約「核不拡散条約(NPT)」で約束されている各国の義務です。しかし、世界には依然として、1万発を大きく超える核兵器が存在します。何十年も停滞していた核軍縮の議論は、ある時から大きく動きました。

それは、ヒバクシャの体験から、“核兵器は安全を守るツールではなく、多くの人を苦しめる残酷な兵器”との考えが広がったからです。この「核兵器の非人道性」の議論は、2013年から、ノルウェー、メキシコ、オーストリアで開催された3つの国際会議が大きな力となり、国連での、核兵器を禁止する条約の交渉へと結びつきました。そして2017年、ついに核兵器禁止条約が採択されたのです。この核兵器禁止条約の採択には、市民社会の力が大きかったと評価されています。

2017年には、そのリーダーシップを担った、国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)」にノーベル平和賞が授与されました。この条約は、ヒバクシャの苦しみと努力を明記しています。広島と長崎の被爆者をはじめ、世界のヒバクシャの“二度と同じ苦しみを誰にも経験させない”との誓いの結晶です。

核兵器禁止の効果は?

核兵器禁止条約には、現段階では核保有国・依存国は参加していません。

しかし、条約が正式な国際法となったことで、核兵器は、禁止すべき違法なものとして認識され、核兵器への見方が変わります。例えば、条約の発効が確実となった段階で既に核兵器への投資を止めた銀行や企業もあります。

禁止から廃絶へ

核兵器禁止条約は、核兵器に関するあらゆる活動を例外なく禁止します。条約に参加する国が増え、核兵器廃絶を求める人々の声が高まることで、“核兵器は恥ずべきもの”との考えが社会に浸透し、条約の力が強まります。条約の適用と実施について検討するために定期的に開催される締約国会議には、国際機関、NGO、そして条約未参加国も出席し議論に参加できます。

今こそ、国や立場の違いを超え、核兵器廃絶に向けた具体的な方法について対話することが求められています。最終的なゴールは、核兵器の禁止だけに留まらず、その廃絶です。それには、市民をはじめとする世論の圧倒的な支持、後押しが不可欠です。

核兵器禁止条約の第2回締約国会議

2023年11月27日(現地時間)、アメリカ・ニューヨークの国連本部で開催され、12月1日まで行われました。

2017年7月に国連で採択され、21年1月に発効した核兵器禁止条約は、核兵器の開発、製造、保有、使用等を禁じる初めての国際条約です。これまでに93カ国が署名し、69カ国が批准国(締約国)となっています。22年6月にはオーストリアのウィーンで第1回締約国会議を実施。ウィーン宣言と50項目からなる行動計画が採択されました。

今回の締約国会議では、前回決めた行動計画の進捗を確認し、核被害者への援助、核で汚染された地域の環境の修復、それらのための国際協力・援助について定めた第6条と第7条を巡る交渉や、同条約の普遍化を進める第12条の進捗などに注目が集まりました。

今すぐ私にできること

- ① 家族や友達に「核兵器禁止条約」を知っているか聞く!
- ② 核兵器のイメージを家族や友人と語り合う!
- ③ なぜ核兵器がいないのか、自分の言葉で伝えられるように!



原爆ドーム(日本)



ざっくり説明すると

原爆が落とされたときの姿をほぼそのまま残している建物です。

① 原爆によって50万人以上の日本人が亡くなった

1945年6月6日午前8時15分、アメリカの建機B29が、日本の広島市の市外地にけて原子爆弾を投下した。上空約600メートルのところで爆発した原爆は、後遺症による被害もふくめると32万人ちかくの人の命を奪った(長崎の原爆もあわせると50万人以上)。そのときに破壊された建物がいまに残る原爆ドームです。

② 焼け残った円盤型の鉄骨から原爆ドームと呼ばれた

原爆ドームはもともと「広島県産業奨励館」という建物で、爆風で破壊され、熱風で全焼し、中にいた人たちはみんな一瞬で亡くなりました。建物の頂上に円盤型の鉄骨が焼け残り、それで原爆ドームと呼ばれるようになりました。

③ 被ばく者たちのうったえもあって、保存されることになった

「原爆の悲劇をずっと伝えなければいけない」という被ばくした市民たちのうったえもあって、1965年に保存されることが決まりました。

平和主義



ざっくり説明すると

日本は二度と戦争をしてはいけないという約束ごとです。

① 軍隊を持たず、絶対に戦争をしない

国民主権、基本的人権の尊重とならんで日本国憲法の三大原則になっています。世界の平和をねがい、軍隊を持たず、二度と戦争をしないという約束ごとです。

② 憲法で「戦争の放棄」がさだめられた

第二次世界大戦のとき、日本は戦争でたくさん死なせたり、苦しめたりしてしまったので、その反省として取り入れられました。憲法では「戦争の放棄」がさだめられています。「交戦権」が禁止され、武力で他国をおどしたり、海外の争いに割って入ったりすることも、やってはいけないのです。

「戦争の放棄」をさだめた憲法第9条

第二章 戦争の放棄

第九章 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

③ 自衛隊は「ほとんど軍隊と同じ」という意見も

戦争を放棄しても国を守る「自衛権」はあるという判断から「自衛隊」が生まれました。でも、自衛隊はほとんど軍隊と同じという意見があり、平和主義に反しているという見方もあります。



アメリカ

アメリカでは、大みそかの前日や大みそか当日は休みず、お正月も1月1日の1日だけしか休みがありません。11月下旬のサンクスギビング(感謝祭)の頃から、クリスマスあたりまでが日本の年末年始の休日ムードに似た雰囲気となり、クリスマスが終われば通常の過ごし方へと変わっていきます。

とはいえ、アメリカでも年明けを祝う気持ちは多くの人々が持っており、大みそかであるニューイヤーズイブには、各地でカウントダウンパーティーが開催されます。家族と自宅でのんびりと過ごす日本とは違い、夜の街へ繰り出して大勢の人と一緒ににぎやかに新年を祝います。年が明けたら側にいる人とハグやキスをするとハッピーに過ごせると信じられており、カウントダウン後は打ち上げ花火やライブなど、夜通しのイベントで盛り上がります。

広大な国であるアメリカは、季節や行事ごとに出される食べ物にも地域によって結構違いがありますが、アメリカ南部では日本のように、お正月に食べる料理が存在します。「ブラック・アイド・ピー」と呼ばれる豆の煮込みで、表面に黒い点のある「黒目豆(ブラックアイドピー)」に玉ねぎやベーコンなどを入れ、トマト味に仕上げた料理です。お正月にブラックアイドピーを食べる理由には諸説あり「黒目豆がコインに似ているため、その年の金運が上がる」、「お正月にしっかり食べることで1年健康に過ごせる」等と信じられています。



中国

中国のお正月は1月ではなく、旧正月が採用されています。「春節」と呼ばれるこの時期は、西暦の1月下旬から2月中旬の間にかけて毎年移動するため、その年ごとに春節の期間は変わります。近年多くの中国系観光客が旅行に訪れることから、日本でも春節の知名度は高まってきており、耳にしたことのある人もいるでしょう。春節の時期になると、中国では1週間程度の休暇を取り、海外旅行へ出かけたり、故郷へ帰って家族とお正月を祝ったりします。大量の爆竹(ばくちく)を鳴らす風習も有名ですね。

中国も国が大きいので、お正月の料理には地域によって細かな違いがありますが、お正月には家族そろって餃子を食べることが多いのです。北京では元旦ではなく、大みそかに餃子が食べられます。また、中国南部では湯圓(タンユエン)と呼ばれる、白玉入りのスープが食べられています。



韓国

韓国も中国同様、お正月のお祝いは旧正月に行われます。家族との繋がりを大切に韓国では、「ソルラル」と呼ばれる旧正月の元旦になると親族同士であいさつ回りをしたり、新品の服を身につけたりして新たな気持ちでお正月を迎えます。韓国のお正月に食べられる料理は歳饌(セチャン)と呼び、「トッ」と呼ばれるお餅入りのお雑煮や「シッケ」というお米入りの甘い飲み物などが代表的です。



ドイツ

ドイツ人はパンが大好き!クリスマスに食べるパン「シュトレン」も有名ですが、お正月にもパンを食べます。お正月用のパンは「ノイヤールスプレッツェル(新年のプレッツェル)」と呼ばれ、パン生地を編んで輪のようにしたシンプルな味わいのパンを食べます。また、ドイツでは大みそかに食べるパンもあり、「ベルリーナー・プファンクーヘン」と呼ばれています。ジャム入りの揚げパンのようなもので、全体的に新年のお祝いも食事もシンプルなのがドイツの特徴です。

World 世界各国の大みそか・お正月事情

日本のように、世界中どこでも大みそかよりお正月の三ヶ日の期間まで長く休みを取るわけではありません。三ヶ日より前に休みを取ったり、二月にお正月を祝ったりする国もあります。世界各国の大みそか・お正月事情についてピックアップして見ていきましょう。



日本

1月1日(祝) 元旦

元旦には初詣に出かけ、おせち料理を食べる習慣があります。玄関には門松を、リビングには鏡餅を飾ります。

1月2日~7日 松の内

1月2日に見る夢が初夢、同日に毛筆でかく書や絵が書き初め、松の内は正月飾りを飾っておいなり年賀状を出せる期間です。松の内最後の七日の朝には七草粥を食べます。また松飾りを片づけることを松送りといいます。松の内の最終日は7日の場合が多いので、その際は1月6日の夜から7日の早朝にかけて外します。

1月7日 七草粥

七草粥は、毎年1月7日(人日の節句)に春の七草を入れて食べるお粥のことです。

七草は早春にいち早く芽吹くことから、邪気を払うといわれました。そのため、これを食べることで、1年の無病息災を祈るようになったのです。この習慣は江戸時代から始まったようです。七草は時代や地域によって異なることもありますが、一般的にセリ、ナズナ(ペンペン草)、ゴギョウ(母子草)、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ(蕪/カブ)、スズシロ(大根)を指します。

1月11日 鏡開き

お正月にお供えした鏡餅を下げて、神仏に感謝し無病息災を願いながら鏡餅を雑煮やかき餅にして食べる風習です。

12月31日 除夜の鐘

おおみそかの深夜に、お寺でつく鐘です。

① おおみそかの深夜0時をはさんで鐘を鳴らす

除夜の鐘とはおおみそか(12月31日)の夜、日付が変わって新しい年になる深夜0時をはさんでつく鐘のことをいいます。除夜の「除」とは古いものを捨てるという意味です。

② 鐘をつく回数は人間の煩惱の数とおなじ108回

除夜の鐘を鳴らす回数は108回。仏教では「人には108の煩惱がある」とされており、煩惱とは「人をまどわせ悩ませたり、苦しめる心」のことです。つまり除夜の鐘を鳴らすことによって、鐘の音とともに煩惱を捨てるというふうと考えられています。

③ ラジオ放送で全国に広まった

鎌倉時代の禅宗のお寺で、中国の習慣にならってはじめられたといわれています。明治時代のころには忘れられていたものが、1927年のラジオ放送で上野寛永寺の除夜の鐘が中継されて、また全国に広まったといわれています。

世界のお正月事情は国によってさまざまですが、新しい年のスタートを喜ぶ気持ちは世界共通であることがわかります。1月2日以降は普通の日常に戻る国も多いなか、年の始めを丁寧に祝う日本の文化も大切にしていきたいものですね!



タイ

中国と陸続きになっており、世界中から多くの観光客を迎えるタイでは、さまざまな文化がミックスされています。そのため、お正月のお祝いも西暦の新年(1月1日)、中華圏の旧正月(1月下旬~2月中旬)、「ソングラーン」と呼ばれるタイ独自の旧正月(4月)と、新年が3回も祝われているのです。

3つのお正月の中でも、やはりタイ人にとって大切なのはソングラーンがある4月のように、この時期に長めの休暇を取るのが一般的。また、タイ北部のチェンマイで行われるソングラーンのお祭りは盛大で、大量の水をかけあう珍しい風習はタイ観光の目玉の1つともなっています。